



6月の例会は、昨年11月に木馬での集材環境づくりを行った湯来町多田で、2月と3月にも行った木馬とポータブルウインチでの集材を行いました。

担当班は3班。藤原班長と総合司会の松崎さんが全体説明をされた後、木馬製作者の山田さんや、この一連の作業に携わった皆様からの注意事項の確認後、木馬による運搬班2つ、動力操作班、木馬道補修班に分かれ、作業を開始しました。

以前に集材された材を道路端の土場^{どほ}まで運ぶ木馬道の距離は、西澤が歩いた感じでは約100m。先ず、①4mに玉切りされ積まれている材を、

「トビ」と「てこ棒」をつかって木馬に乗せま^す。次に、ロープウインチ(前半)ワイヤーウインチ(後半)で②木馬を引っ張りながら、枕木(レール)から外れないように操作して下方へ。③ロープ操作をしながら下方へ向かいます。④木馬が下りた最終地点で木材を下ろし、今度は既に積み上げている集材の上に、ロープ2本を使って更に上に載せま^す。木を降ろし空になった木馬は、人力で約100メートル上の初めの集材場に運びま^す。これが一連の工程です。木馬が通った後は木馬道を点検補修します。この各々の作業に人が付き担いました。この作業を2班(木馬2基)あわせて11回行い、木材を22本運び下ろすことができました。

作業後の会での各班報告では、湯来での集材が4回目、集材作業は3回目であったこともあり、作業に慣れていた方が多くヒヤリハットはなかったこと、前日までの雨で、材が重たかったこと、木馬道が滑りやすく、補修がほとんどなかったことの報告がありました。時間内では全ての材を運び出せなかったため湯来での集材はまだ続きます。待て次回！

